

「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」（案）の概要

価値観が多様化し、共通の基盤が見つげにくくなるおそれのあるこれからの時代においては、言葉によって、考え方や気持ちを表し、互いに対する理解を深めていくことが欠かせない。

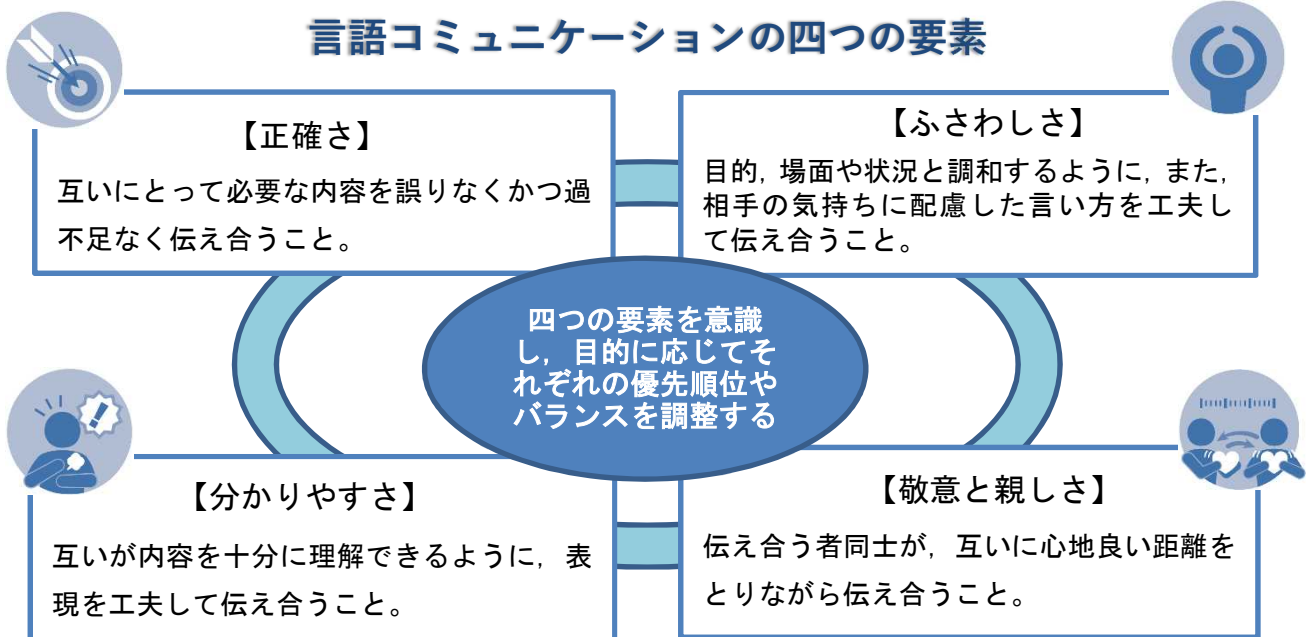
コミュニケーションやコミュニケーションに関する力については、大きな期待が寄せられてきた一方で様々な捉え方やイメージがあり、常に通用する正解がない。当報告では、情報や考え、気持ちを伝え合って共通理解を深める働き、「分かり合うためのコミュニケーション」に焦点化。

これからの時代のコミュニケーションに必要な考え方

- ◇ 多様性を前提として、互いに歩み寄るよう努める
- ◇ 人の言葉遣いは寛容に受け止め、自身は適切な言葉を使うよう努める
- ◇ 敬語を適切に用いるとともに、親しさを示す言葉遣いも意識する
- ◇ 語彙を幅広く身に付け使いこなす
- ◇ 情報化によって発展してきた伝え合いの手段や媒体の特性を意識する
- ◇ 言葉による伝え合いの重要性を見直す

言葉によって円滑に伝え合うための手掛かり

言語コミュニケーションの四つの要素



➡ 四つの要素それぞれに五つの観点の例と、更に三つずつの具体的な事項の例を掲出

四つの要素を意識した言語コミュニケーションに関するQ & A (35問)

問いの例

- 言葉の誤解はどのような場合に起こりやすいのでしょうか。具体的に教えてください。
- 分かりやすさに配慮する上で、書き言葉と話し言葉では、それぞれどのようなことに注意するのでしょうか。
- 1対1や数人での会話、十数人程度に対しての話し方、もっと大勢を前にしたときの話し方では、注意するところがどのように変わるのでしょうか。
- 敬意は敬語を使えば表せるような気がしますが、親しさを表すとと言われても難しく感じます。例えば、どんな工夫ができるのでしょうか。